

令和8年度入札の結果について

2026年5月21日（木）

入札結果の概要（処理能力の逼迫度）

- 2025年度までケミカルリサイクルの落札量が減少傾向にあったが、**2026年度は微増**。
- 今般の見直しにより、再商品化事業者は設備能力の9割まで落札可能量を保有することとしたところであるが、**実際の処理可能量**（入札前に再商品化事業者からの減量申請に基づいて算出）は、**前年同等で、むしろ微減**。
- **処理可能量と市区町村申込量の差分（逼迫度）**については、**改善が見られなかった**。

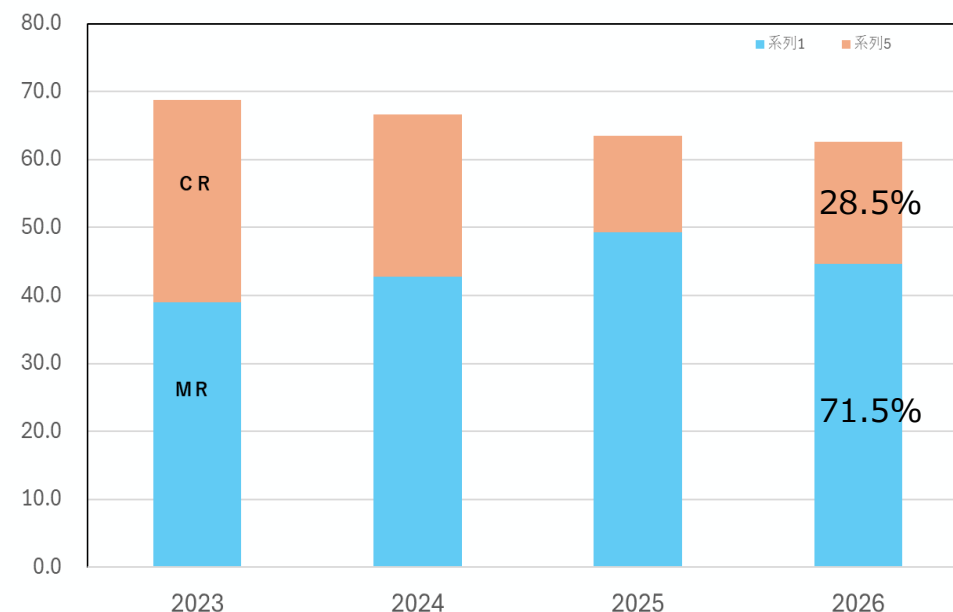
●手法毎の落札単価・数量

	加重平均落札単価（円/トン）			落札数量（トン）		
	R8年度	R7年度	前年増減	R8年度	R7年度	前年増減
材料リサイクル	73,280	67,779	5,501	447,064	492,720	-45,656
高炉還元剤化	58,360	54,779	3,581	17,737	15,903	1,834
コークス炉 化学原料化	64,558	62,943	1,615	108,721	76,318	32,403
ガス化	60,158	58,205	1,953	51,530	50,803	727
合計	70,253	66,105	4,148	625,345	636,049	-10,704

●処理可能量と市区町村申込量

（千トン）	R7年度	R8年度
①処理可能量	688	667
②市区町村の申込量	660	644
差分（①－②）	28 (4.1%)	23 (3.5%)

容リプラ MRとCRの落札量（万トン）



材料リサイクル優先枠事業者の入札状況

- 今般の見直しにより、材料リサイクル優先枠と一般枠の競争倍率を平準化するために、材料リサイクル優先枠事業者については、昨年度の処理能力を基に、落札可能量のうち70%を優先枠に、30%を一般枠に入札できることとした。
- しかしながら、一般枠に入札を行った優先枠事業者は7社のみで、多くは優先枠のみでの入札となった。

●初回入札時の入札枠別・手法別の札数

優先枠事業者 28社		一般枠事業者 材料一般6社、ケミカル4社		合計
優先札数	一般札数	材料一般札数	ケミカル札数	
880	113 (7社)	510	881	2,384

(参考) 材料優先枠事業者の【優先枠70%・一般枠30%】の設定根拠 (R7年度処理可能量による想定) (千トン)

	材料優先枠事業者	一般枠事業者	合計
R7年度処理可能量	505	156	661
	優先枠	—	353
	一般枠	156	307

初回入札と指名入札による落札結果

- 初回入札では、上限価格をオーバーした札が多く、**27.1万トンが不落**となる事態が発生。
- その後、**3回の再入札を実施**して、全ての保管施設が落札された。
- 初回入札における**入札価格の分布**を見ると、特に**材料リサイクルについては事業者ごとに幅がある**。

●入札回ごとの落札量

(千トン)

		R8年度
①全体落札量		644
②初回落札量		373
	材料リサイクル優先枠	(うち179)
	一般枠	(うち193)
③指名入札落札量 (3回計)		271

初回入札における入札価格の分布

